

The Program Description

# 言語教育プログラム

Template in Language Education

松下達彦  
札幌寛子

編著

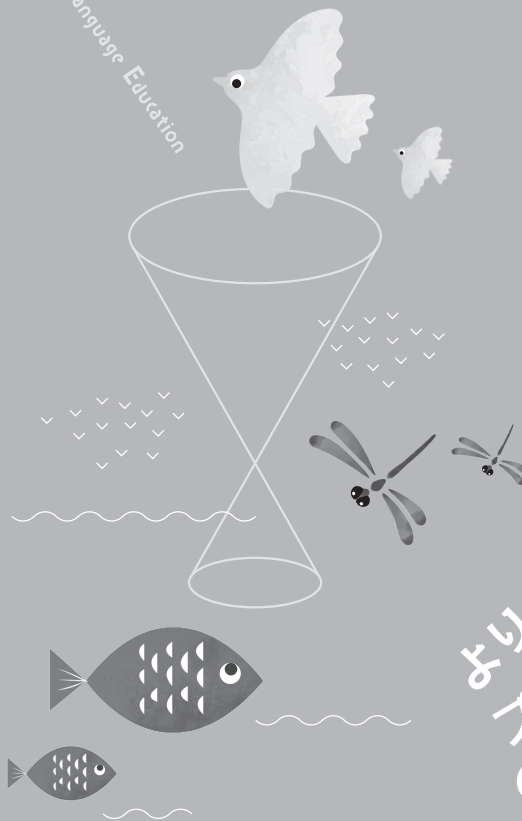
遠藤藍子  
大河原尚  
大船ちさと  
小池亜子  
菅谷有子  
鈴木秀明  
田中和美  
徳永あかね  
中河和子  
古川嘉子  
ボイクマン総子  
松尾憲暁

著

多様な現場の具体例付きでわかりやすい!

可視化する

よりよい  
プログラム運営  
のために



## まえがき

一般的に、ものごとを正しく理解するには、俯瞰的に全体を捉えようとする「鳥の目」と、近距離から深く詳細に見ようとする「虫の目」が必要だと言われます。また、「虫の目」には、視点を変えて複眼的に見るという考え方もあるようです。（さらに最近では、時の流れを捉える「魚の目」などの説も見受けられます。）日本語をはじめとする言語教育プログラムでも、ほとんどの教師は、教師と学習者という近い距離での「虫の目」の視点で、日々の授業活動でどのように学習を進めると効果のかなどを常に詳細に考えているのではないのでしょうか。その一方で、自分が関わる言語教育プログラムを俯瞰的に、すなわち「鳥の目」で社会的に位置づけて、そして同じ「虫の目」でも複眼的に、すなわち異なる立場からはどう見えるかなども考慮しながらプログラムの詳細を見るというのは、きっかけがないと取り組みにくいことかもしれません。しかし、このようなプログラムの捉え方は、PDCA（Plan 計画 ⇒ Do 実施 ⇒ Check 評価 ⇒ Act 改善）サイクルを活用してよりよいプログラムの運営を進めていくうえで不可欠なものです。

そこで、私たち、言語教育プログラム研究会<sup>\*1</sup>では、そのきっかけとなるようなツール「言語教育プログラム可視化テンプレート」を作成しました。本書はそのテンプレートの解説書です。（開発の理由や経緯の詳細はⅠ章をご参照ください。なお、本書の記述は、日本語教育担当者が日本語教育界の現状を踏まえたうえで著したものとなっていますが、「言語教育プログラム可視化テンプレート」自体は日本語教育に特化しているわけではありません。さまざまな言語教育プログラムにも適用できるように意識して作成してあります。）

現職者あるいは運営担当者の方は、自分が関わる言語教育プログラムについての理解を深めるために、ぜひ本書をご利用ください。テンプレートのいろいろな質問に答えていくことにより、自分が意識していなかったプログラムの側面や全体像が見えてくるでしょう。あるいは、プログラムの在り様を記述することにより、例えば外部の協定機関関係者などに自分のプログラムがどのようなものであるかを説明することにも活用可能です。また、教職員研修（FD／SD=Faculty Development／Staff Development）などの機会に、可能であれば異なる立場にあるプログラム関係者間でテンプレートを記述してみて、それぞれの捉えるプログラムの現状理解を共有し、認識のずれや関心度の違いなどを確認してみてください。それによって、プログラムを複眼的にも捉えることができるようになり、よりよいプログラムの実現に結びつけるための対話を始められるでしょう。

さらに、日本語教師養成課程でも、『登録日本語教員 実践研修・養成課程コアカリキュラム』<sup>\*2</sup>の「必須の教育内容 37 項目」に含まれる学習項目「〈21〉日本語教育プログラムの理解と実践」のための教材として利用すれば、早い段階から言語教育プログラムを俯瞰的、そして複眼的に捉える能力の育成に役立つはずです。

折しも、日本語教育の活動が法制化され、文部科学省による日本語教育機関の認定制度や国

家資格の登録日本語教員制度、実践研修機関・日本語教員養成機関の登録制度などが動き出しました（本書制作時点）。これらの制度が制定された社会的背景を考えると、例えば登録日本語教員資格などのいろいろな制度を活用する際に、一教師であっても、自分が関わる言語教育プログラムを社会的存在として俯瞰的、複眼的に捉える視点がますます重要になってきているのではないのでしょうか。そのために、言語教育プログラム可視化テンプレートの記述を通して、それぞれが関わる言語教育プログラムの在り様への理解を深めていただけることを願っています。本書がよりよい言語教育プログラムの実現に少しでも貢献できれば幸いです。

令和 6（2024）年夏

執筆者を代表して 札野 寛子

\*1 「言語教育プログラム研究会」ウェブサイト

[http://www.l7408ui.sakura.ne.jp/tatsum/project/Pro\\_Ken/index.html](http://www.l7408ui.sakura.ne.jp/tatsum/project/Pro_Ken/index.html)



\*2 「登録日本語教員 実践研修・養成課程コアカリキュラム」（令和 6 年 4 月 1 日 中央教育審議会生涯学習分科会日本語教育部会決定）

[https://www.mext.go.jp/content/20240321-ope\\_dev02-000034812\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240321-ope_dev02-000034812_4.pdf)



# もくじ

まえがき .....i

## プロローグ：こんなことはありませんか？－事例から考える「プログラム」の視点の必要性－ 1

## 1章 言語教育プログラム可視化テンプレート 7

- 1.1 本書の目的 .....8
- 1.2 テンプレートおよび本書の構成 .....10
- 1.3 用語の定義 .....14

## 2章 言語教育プログラムの社会的背景・現状および基本理念・使命・目標 21

- 2.1 社会的背景・プログラムの現状 .....23
  - 2.1.1 社会的背景 .....23
    - 2.1.1.1 対象プログラムは内外のどのような社会状況やニーズと関連しているか .....23
    - 2.1.1.2 対象プログラム実施にあたり、考慮すべき社会的条件や制約があるか .....24
  - 2.1.2 プログラムの現状 .....26
    - 2.1.2.1 対象プログラムには社会状況やニーズ、社会的条件や制約がどう影響しているか .....26
    - 2.1.2.2 （既存プログラムの場合、）どのような実績や課題があるか .....27
- 2.2 基本理念・使命・目標 .....28
  - 2.2.1 基本理念・使命 .....29
    - 2.2.1.1 対象プログラムの基本理念・使命は何か .....29
  - 2.2.2 目標 .....30
    - 2.2.2.1 目標や下位目標は何か .....30

## 3章 言語教育プログラムのリソース（資源）－ヒト・モノ・カネ・情報－ 35

- 【ヒト】
- 3.1 対象者（学習者等） .....37
  - 3.1.1 どのような対象者がいるか .....37
  - 3.1.2 背景・特性等はどのようなものか .....38
- 3.2 教師 .....39
  - 3.2.1 教師はどのような役割か .....39
- 3.3 学習支援者 .....40
  - 3.3.1 学習支援者はどのような役割か .....40
- 3.4 コーディネーター・主任教員等 .....41
  - 3.4.1 コーディネーター・主任教員はどのような役割か .....41
- 3.5 その他のプログラム運営の関係者・関係組織 .....42
  - 3.5.1 どのような立場の人や機関が関係しているか .....42
  - 3.5.2 決定権のある関係者はだれか .....43
  - 3.5.3 上位組織と言語教育プログラムはどう関係し、位置づけられるか .....44
  - 3.5.4 その他の組織・関係者には何があるか（事務スタッフや組織外の関係者等） .....46

|                                                                                                       |    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【モノ】                                                                                                  |    |
| 3.6 施設・設備・備品 .....47                                                                                  |    |
| 3.6.1 プログラムの対象者用に、どのようなモノがあるか .....47                                                                 |    |
| 3.6.2 教師・学習支援者用に、どのようなモノがあるか .....48                                                                  |    |
| 【カネ】                                                                                                  |    |
| 3.7 予算・資金 .....48                                                                                     |    |
| 3.7.1 プログラムにはどこからカネが来ているか .....48                                                                     |    |
| 3.7.2 どのくらいカネがかかるか .....49                                                                            |    |
| 【情報】                                                                                                  |    |
| 3.8 情報 .....50                                                                                        |    |
| 3.8.1 プログラムにはどのような情報があるか .....50                                                                      |    |
| 3.8.2 情報はどの範囲で共有されているか .....51                                                                        |    |
| 3.8.3 情報はどのような方法で共有されているか .....52                                                                     |    |
| 4章 言語教育プログラムにおける学習・教育の活動内容                                                                            | 55 |
| 4.1 時間的枠組み .....57                                                                                    |    |
| 4.1.1 プログラムの時間的枠組み（期間・学習時間・単位数・活動頻度など）は<br>どうなっているか .....57                                           |    |
| 4.2 活動単位（科目等）の構成 .....58                                                                              |    |
| 4.2.1 どのような活動単位（科目等）の分類（4 技能総合型、特定の技能・専門分野別など）に<br>なっているか .....58                                     |    |
| 4.2.2 能力レベルを設定する場合、どのような基準を用いているか .....60                                                             |    |
| 4.3 各レベルや各活動単位（科目等）の目標とプログラム全体の目標の関連づけ .....62                                                        |    |
| 4.3.1 各レベルや各活動単位（科目等）の目標は、プログラム全体の目標と<br>どう関連づけられているか .....62                                         |    |
| 4.4 主な活動単位（科目等）の特性 .....64                                                                            |    |
| 4.4.1 どのような媒体を用いて指導や支援を行っているか<br>（例：対面授業、オンライン授業、通信教育） .....64                                        |    |
| 4.4.2 どのくらいのクラスサイズ（例：少人数クラス、個人指導、グループ学習）で、<br>どのような学習形式（例：講義・演習型／ゼミ形式／グループ学習など）によって<br>実施されるか .....65 |    |
| 4.4.3 どのような教材を用いているか（例：書籍／動画／生教材／ウェブ教材など） .....66                                                     |    |
| 4.4.4 どのようなシラバス（学習項目一覧）タイプか（例：構造（文法）、機能、<br>技能（スキル）、場面、話題（トピック）、行動・体験中心の活動など） .....67                 |    |
| 4.4.5 どのような教育方法が用いられているか（例：直接法／媒介言語使用可、<br>コミュニケーションアプローチ、タスク中心の教授法など） .....68                        |    |
| 4.5 各活動単位（科目等）での評価方法、プログラム修了の認定 .....70                                                               |    |
| 4.5.1 各活動単位（科目等）でどのような評価方法が用いられているか<br>（例：筆記テスト、会話テスト、プレゼンテーション、レポート課題など） .....70                     |    |
| 4.5.2 プログラム修了の認定はどのように行われるか .....71                                                                   |    |

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 5章 言語教育プログラムの実施・運営      | 73 |
| 5.1 実施・運営スケジュール .....76 |    |

|                                                                      |  |
|----------------------------------------------------------------------|--|
| 5.1.1 プログラム実施・運営のスケジュールは、いつだれがどのように決めるか .....76                      |  |
| 5.2 教師・学習支援者および運営スタッフ .....77                                        |  |
| 5.2.1 教師・学習支援者および運営スタッフは、いつだれがどのように決めるか<br>（採用・配置） .....77           |  |
| 5.3 対象者（学習者等） .....78                                                |  |
| 5.3.1 対象者（学習者等）は、いつだれがどのように決めるか（募集・選考・受入れ） .....78                   |  |
| 5.4 シラバス・時間割等 .....79                                                |  |
| 5.4.1 シラバス、時間割等はいつだれがどのように作成するか .....79                              |  |
| 5.5 リソース（資源）の配置と共有 .....80                                           |  |
| 5.5.1 「ヒト」の配置をどうするか .....80                                          |  |
| 5.5.2 「モノ」の配置をどうするか .....81                                          |  |
| 5.5.2.1 「場所」の配置をどうするか .....81                                        |  |
| 5.5.2.2 その他の「モノ」の配置をどうするか .....82                                    |  |
| 5.5.3 「情報」の共有をどうするか .....83                                          |  |
| 5.6 他部署・他機関との連携 .....84                                              |  |
| 5.6.1 組織内関連他部署との連携をどうするか .....84                                     |  |
| 5.6.2 組織外との連携をどうするか .....85                                          |  |
| 5.7 「ヒト」への支援 .....87                                                 |  |
| 5.7.1 対象者（学習者等）への支援は、どのようにしているか .....87                              |  |
| 5.7.2 教師・学習支援者および運営スタッフへの支援は、どのようにしているか .....88                      |  |
| 5.8 プログラムの点検・評価システム .....89                                          |  |
| 5.8.1 プログラムの点検・評価はいつだれがどのように実施するか .....89                            |  |
| 5.8.2 どのような証拠資料（エビデンス）をいつだれがどのように保存するか .....91                       |  |
| 5.8.3 問題点の改善をいつだれがどのように行うか .....93                                   |  |
| 5.9 危機管理／リスクマネジメント .....93                                           |  |
| 5.9.1 危機管理／リスクマネジメントはだれがどのようにしているか<br>（例：感染症、自然災害、情報漏洩、誹謗中傷） .....93 |  |

|                                                |    |
|------------------------------------------------|----|
| 6章 言語教育プログラムの成果と課題                             | 97 |
| 6.1 成果・目標達成の程度 .....98                         |    |
| 6.1.1 どのような成果があがったか、また、どの程度「目標」が達成できたか .....98 |    |
| 6.2 問題点・今後への課題 .....102                        |    |
| 6.2.1 どのような問題点・今後への課題があるか .....102             |    |
| 6.3 問題解決・改善への取り組み .....103                     |    |
| 6.3.1 どのように問題解決・改善に取り組むか .....103              |    |

|                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| 7章 テンプレート記述事例集                    | 107 |
| 7.1 地域日本語教室の場合 .....108           |     |
| 7.2 進学中心の日本語学校の場合 .....117        |     |
| 7.3 日本語教育サービスを提供する会社の場合 .....128  |     |
| 7.4 大学の留学生別科の日本語プログラムの場合 .....138 |     |

|     |                         |          |
|-----|-------------------------|----------|
| 7.5 | 理系の大学院の日本語プログラムの場合      | .....148 |
| 7.6 | 海外の大学の日本学専攻の日本語プログラムの場合 | .....158 |

## 8章 むすび：言語教育「プログラム」を考える 167

|       |                       |          |
|-------|-----------------------|----------|
| 8.1   | 言語教育活動を「プログラム」として見る   | .....167 |
| 8.2   | 評価論における「プログラム」の捉え方    | .....167 |
| 8.3   | 言語教育活動における「プログラム」の特徴  | .....168 |
| 8.3.1 | 「プログラム」のレベル           | .....169 |
| 8.3.2 | 社会的背景・現状、基本理念・使命・目標   | .....169 |
| 8.3.3 | 多様な関係者：ステークホルダー       | .....171 |
| 8.3.4 | 実施・運営に必要な「リソース（資源）」   | .....172 |
| 8.3.5 | 複数の活動のまとめ             | .....172 |
| 8.3.6 | 計画とプロセス               | .....173 |
| 8.3.7 | 「プログラム」の成果とその社会的影響    | .....173 |
| 8.3.8 | 持続可能性                 | .....174 |
| 8.4   | 言語教育を「プログラム」として捉える必要性 | .....175 |
| 8.5   | 教育活動から「プログラム」へ        | .....176 |
| 8.6   | 現場を「プログラム」として見直す      | .....177 |

### Column

|                                     |          |
|-------------------------------------|----------|
| 対象者（学習者等）もリソース                      | .....39  |
| 多岐にわたるコーディネーター・主任教員の役割              | .....42  |
| 関係者・機関の役割分担のあり方について考える              | .....43  |
| 何をもって成果を証明するか？                      | .....45  |
| ノウハウも重要なリソース                        | .....52  |
| リソース（資源）としての「時間」                    | .....53  |
| 「活動単位（科目等）の組み合わせ」と「成果」「コスト」「クラスサイズ」 | .....59  |
| 言語運用能力の客観的な基準の有用性                   | .....61  |
| 合理的配慮                               | .....88  |
| エビデンス？ それとも個人情報？ そして試験の公正性          | .....92  |
| プログラム評価・業績測定 vs. 自己点検評価             | .....101 |

|       |          |
|-------|----------|
| 資料    | .....179 |
| あとがき  | .....187 |
| 執筆者一覧 | .....190 |

データ版「言語教育プログラム可視化テンプレート」  
<https://www.bonjinsha.com/wp/VisualizationTemplate>



参考：言語教育プログラム研究会「言語教育プログラム可視化テンプレート」  
[http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/project/Pro\\_Ken/contents.html](http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/project/Pro_Ken/contents.html)



執筆者一覧

\*カッコ内は主な執筆担当部分

【編著者】

|                  |                                                    |
|------------------|----------------------------------------------------|
| 松下 達彦（まつした たつひこ） | 国立国語研究所／総合研究大学院大学日本語言語科学コース教授（プロローグ、1章、4章、8章、あとがき） |
| 札野 寛子（ふだの ひろこ）   | 金沢工業大学 名誉教授（まえがき、2章、6章、8章）                         |

【著 者】（50 音順）

|                     |                                                                        |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 遠藤 藍子（えんどう らんこ）     | 元 昭和女子大学大学院文学研究科 教授（2章、7章）                                             |
| 大河原 尚（おおかわら ひさし）    | 大東文化大学国際交流センター 特任准教授（8章）                                               |
| 大船 ちさと（おおふね ちさと）    | 国際交流基金日本語国際センター日本語教育専門員（5章）                                            |
| 小池 亜子（こいけ あこ）       | 国士舘大学政経学部政治行政学科 准教授（3章）                                                |
| 菅谷 有子（すがや ゆうこ）      | 元 東京大学大学院工学系研究科 非常勤講師（2章、7章）                                           |
| 鈴木 秀明（すずき ひであき）     | 目白大学外国語学部日本語・日本語教育学科 教授（3章）                                            |
| 田中 和美（たなか かずみ）      | 元 ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）主任講師、元 国際基督教大学 教授、ケンブリッジ大学アジア中東学部 非常勤講師（5章、7章） |
| 徳永 あかね（とくなが あかね）    | 神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科 教授（2章、7章）                                     |
| 中河 和子（なかがわ かずこ）     | トヤマ・ヤポニカ 代表、富山大学 非常勤講師（3章、7章）                                          |
| 古川 嘉子（ふるかわ よしこ）     | 帝京大学外国語学部国際日本学科 教授（4章）                                                 |
| ボイクマン 総子（ぼいくまん ぶさこ） | 東京大学大学院総合文化研究科 教授（4章）                                                  |
| 松尾 憲暁（まつお のりあき）     | 岐阜大学日本語・日本文化教育センター 助教（3章）                                              |

データ版「言語教育プログラム可視化テンプレート」  
<https://www.bonjinsha.com/wp/VisualizationTemplate>



参考：言語教育プログラム研究会「言語教育プログラム可視化テンプレート」  
[http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/project/Pro\\_Ken/contents.html](http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/project/Pro_Ken/contents.html)



言語教育プログラムを可視化する  
よりよいプログラム運営のために

2024 年 11 月 20 日 初版第 1 刷発行

|           |                                                                        |
|-----------|------------------------------------------------------------------------|
| 編 著 者     | 松下達彦，札野寛子                                                              |
| 著 者       | 遠藤藍子，大河原尚，大船ちさと，小池亜子，菅谷有子<br>鈴木秀明，田中和美，徳永あかね，中河和子，古川嘉子<br>ボイクマン総子，松尾憲暁 |
| 発 行       | 株式会社 凡人社<br>〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-3-13<br>電話 03-3263-3959             |
| イ ラ ス ト   | 森貴夫                                                                    |
| カバーデザイン   | 株式会社コミュニケーションアーツ                                                       |
| 印 刷 ・ 製 本 | 倉敷印刷株式会社                                                               |

定価はカバーに表示してあります。乱丁本・落丁本はお取り換えいたします。  
＊本書の一部あるいは全部について、著作者から文書による承諾を得ずに、いかなる方法に  
おいても無断で、転載・複写・複製することは法律で固く禁じられています。

ISBN 978-4-86746-027-6  
©MATSUSHITA Tatsuhiko, FUDANO Hiroko, et al. 2024 Printed in Japan